

第1号議案 2021年度事業報告

I 一般事業計画

1 会員の状況（総会議案書に掲載）

2 広報事業

- (1) 会誌「北海道の自然」の発行：第60号（2022年2月10日、86頁）
- (2) 会報「NC Hokkaido」の発行：No.184（2021年4月、8頁）、No.185（2020年8月、12頁）、No.186（2021年12月、11頁）
- (3) ホームページのリニューアルと内容の充実（適宜追加）

3 普及事業

(1) 第28回夏休み自然観察記録コンクールの開催

募集期間：2021年7月30日～9月24日、応募数：29校、42点

金賞（1点）：福井清夏（札幌市立宮の森小学校5年）「クモの糸の強さにせまる」

銀賞（2点）：土屋檜生（安平町立安平小学校5年）「ぼくのあこがれカブトムシ」

：岸田哲平（恵庭市立恵庭小学校5年）「ヒゲナガカワトビケラの幼虫の研究」

銅賞（6点）、佳作（11点）

特別賞（1点）

学校賞：札幌市立藻岩小学校

(2) 第28回夏休み自然観察記録コンクール入賞作品の展示

① 2020年11月2日～7日、札幌市資料館、来場者総数約230名

② 2022年1月5日～10日、札幌市円山動物園動物科学館ホール、来場者総数約313名

(3) 自然保護講演会・シンポジウム

① 自然保護講演会

日時：2021年10月16日（土）

会場：札幌市立大学サテライトキャンパス

講師：藤田尚夫（シーライオンズクラブ代表）「今、海で何が起きているか」

和田一雄（元東京農工大学教授）「トド保全論：トドと人間の共存を目指して」

当初は総会後の自然保護講演会で行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大のため会場での総会は中止となり、講演会を延期して行った。

② シンポジウム「いま、国立公園を考える」

日時：2021年10月23日（土）

会場：帯広市とかちプラザ

主催：北海道自然保護連合（共催 北海道自然保護協会ほか）

協会としては 2020 年 11 月に亡くなった名誉会員の俵 浩三さんの追悼の意味があった。

(4) 自然を語る会

会場：札幌市立大学サテライトキャンパス（札幌市中央区北 4 条西 5 丁目 アスティ 45）

- ① 2021 年 10 月 12 日：池田 透氏（北大大学院文学研究院教授）「SDGs（持続可能な開発目標）とは何か？」
- ② 2021 年 11 月 30 日：吉中厚裕氏（酪農学園大学農食環境学群准教授）「厚岸霧多布昆布森国定公園の指定が意味すること」
- ③ 2021 年 12 月 14 日：在田一則氏（北海道自然保護協会会長）「自然界におけるヒ素の問題～北海道新幹線札幌トンネルの対策土問題」

当初は 8 月、9 月、10 月の第 2 火曜日を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大のため延期になった。

(5) 自然保護大学「石狩低地帯の成り立ちとその生物学的意義」

日時：2021 年 11 月 13 日(土)

会場：札幌市立大学サテライトキャンパス（札幌市中央区北 4 条西 5 丁目 アスティ 45）

- ① 嵯峨山 積氏（NPO 法人北海道総合地質学研究センター副理事長）

「石狩低地帯の成り立ち：地形と地質」

- ② 増田隆一氏（北海道大学大学院理学研究院教授）

「石狩低地帯とヒグマ・キタキツネの集団遺伝的特徴」

- ③ 並川寛司氏（北海道教育大学名誉教授）

「石狩低地帯における落葉広葉樹林の生態－気候の背腹性と海退に着目して－」

(6) 市民自然観察会「街中ジオ散歩－逝きしサッポロ川をたどる」

当初は、5 月 29 日(土)「大倉山と三角山」、7 月 3 日(土)「北大構内の湧泉川とアイヌ・コタン」、8 月 7 日(土)「北大植物園を流れていた古サッポロ川と湧泉川」、9 月 4 日(土)「知事公館の庭を流れていた原サッポロ川と湧泉川」、10 月 2 日(土)「中島公園の古サッポロ川と名残川」、11 月 6 日「新旧サッポロ川の河川争奪現場」の 6 回の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大のため、実施したのは最後の 11 月 6 日のみ（13 名、うち案内者 3 名）であった。

(7) 2021 年度円山公園外来植物除去作業（ボランティア活動）

5 月 21 日～11 月 4 日の間 12 回実施予定であったが、初回から中止となり、実施は半数の 6 回にとどまった。参加人数は平均 12.8 人。中止 6 回のうち 3 回は会員らの自主参加で活動した。除去したのは、イワミツバ 113.5kg、ゴボウ 79 kg、オオハンゴンソウ 40.5kg、アメリカオニアザミ 4.1kg、ガーリックマスタード 3.2kg であった。

イワミツバについては、円山公園内には群生地は完全に無くなったが、元群生地だったところにはチラチラと再生株が見られるので、ふた月に一度は除去作業必要である。ユースの森内は群生地が広くあり、まだ手をつけたばかりの状態である。次年度は開始前に群生地の面積を測定して行いたい。ゴボウも同様である。公園事務所の要請でオオハンゴンソウも駆除対象にした。公園内には群生地はないが、ユースの森とサブグラウンド西の林内に群生が見られ、これらはほぼ除去できた。

なお、札幌ライオンズクラブから除去作業応援の申し出があり、10 月 9 日(土) 午前菅原雅之会長ほか 8 名の皆さんとユースの森で除去作業を行った。

(8) 協会事務所の移転

1964年に発足した当協会は当初北大植物園内に寄寓していたが、1977年6月に北3条西2丁目富山ビルに事務所を構え、翌年2月に北1条西7丁目広井ビルに移転した。10年後の1988年4月には北3条西11丁目の加森ビルに引っ越し、爾来33年間北大植物園を道路越しに眺めながら過ごしてきた。

協会会員数の減少により、財政規模の割にはかなり高い事務所賃借料に悩んできたが、株式会社秀岳荘のご厚意により同社白石店隣の民家の一部屋を提供され、10月18日下記に事務所を移転した。

住所：〒003-0026 札幌市白石区本通 1 丁目南 2-38

電話：011-876-8546（新規）

4 自然保護活動および調査研究に係わる事業

(1) 意見書・要望書（協会単独で提出） 11件

- ① 2021年5月24日 株式会社斐太工務店代表取締役宛「（仮称）八の沢風力発電事業環境影響評価書に係る住民説明会を求める要望」
- ② 2021年7月12日 北海道知事宛「令和3年度（2021年度）エゾシカの可猟区域及び期間等（案）に係る意見調書」
- ③ 2021年9月12日 環境省大臣官房環境影響評価課宛「環境影響評価法施行令の一部を改正する政令（案）に対する意見」
- ④ 2021年12月27日 環境大臣宛「日高山脈襟裳国定公園の国立公園昇格に関する要望：とくに不要な名称変更をしないことの要望」
- ⑤ 2022年1月12日 北海道環境生活部環境局自然環境課宛「第13次北海道鳥獣保護管理計画（素案）に対する意見」
- ⑥ 2022年1月12日 北海道環境生活部環境局自然環境課宛「北海道エゾシカ管理計画（第6期）（素案）に対する意見」
- ⑦ 2022年1月12日 北海道環境生活部環境局自然環境課宛「北海道ヒグマ管理計画（第2期）（素案）に対する意見」
- ⑧ 2022年1月12日 北海道環境生活部環境局自然環境課宛「北海道アザラシ管理計画（第3期）（素案）に対する意見」
- ⑨ 2022年3月22日 株式会社ユーラスエナジーホールディングス社長宛「（仮称）宗谷管内風力発電事業 計画段階環境配慮書に対する意見」
- ⑩ 2022年3月22日 株式会社ユーラスエナジーホールディングス社長宛「（仮称）抜海・豊田風力発電事業 計画段階環境配慮書に対する意見」
- ⑪ 2022年3月22日 株式会社ユーラスエナジーホールディングス社長宛「（仮称）留萌北部（沿岸）広域発電事業 計画段階環境配慮書に対する意見」

(2) 意見書・要望書（他団体と連名で提出、他団体名は最後に記す） 11件

- ① 2021年7月20日 「HOKKAIDO BALLPARK F VILLAGEに関わる要望書」（株式会社ファイターズ S&E 社長宛） [3団体]
- ② 2021年9月22日 「北海道日本ファイターズの新球場に関する要望」（株式会社ファイターズ S&E 事業統轄本部長宛） [3団体]
- ③ 2021年10月1日 「北海道日本ファイターズの新球場に関する要望」（文化庁長官宛） [3団体]

- ④ 2022年2月22日 「北海道日本ファイターズの新球場に関する要望」(株式会社ファイターズ S&E 事業統轄本部長宛) [3団体]
- ⑤ 2022年3月4日 「ご回答(1月31日付)および意見交換(2月4日)についての質問と要望」(株式会社ファイターズ S&E 事業統轄本部長宛) [3団体]
- ⑥ 2022年3月4日 合同会社グリーンパワー石狩・(株)グリーンパワーインベストメント宛「石狩湾新港洋上風力発電事業の事業説明会開催を求める要望」(道民連絡会)
- ⑦ 2022年3月4日 北海道知事宛「石狩湾新港洋上風力発電事業の事業説明会開催について事業者への働きかけを求める要望」(道民連絡会)
- ⑧ 2022年3月8日 経済産業大臣宛「石狩湾新港洋上風力発電事業の事業説明会について事業者への働きかけを求める要望」(道民連絡会)
- ⑨ 2022年3月8日 経済産業省北海道経済産業局長宛「石狩湾新港洋上風力発電事業の事業説明会について事業者への働きかけを求める要望」(道民連絡会)
- ⑩ 2022年3月8日 環境大臣宛「石狩湾新港洋上風力発電事業の事業説明会について事業者への働きかけを求める要望」(道民連絡会)
- ⑪ 2022年3月11日 石狩湾新港管理組合管理者宛「石狩湾新港洋上風力発電事業の事業説明会開催について事業者への働きかけを求める要望」(道民連絡会)

3 団体：北海道自然保護協会・北広島森の倶楽部・北広島の自然を考える会

道民連絡会：石狩湾洋上風車建設反対道民連絡会(共同代表：石狩湾岸の風力発電を考える石狩市民の会・銭函海岸の自然を守る会・北海道自然保護協会)

(3) 運動

① ダム問題

協会では、主に**二風谷ダム**(重力式コンクリートダム、堤頂長：550m、堤高：32m、湛水面積：4.3km²、有効貯水容量：1,720万m³)、**当別ダム**(台形CSGダム、堤頂長：432m、堤高：52m、湛水面積：5.8km²、有効貯水容量：6,650万m³)・**サンルダム**(台形CSGダム、堤頂長：350m、堤高：46m、湛水面積：3.8km²、有効貯水容量：5,020万m³)・**平取ダム**(重力式コンクリートダム、堤頂長：350m、堤高：55m、湛水面積：3.1km²、有効貯水容量：4,450万m³)について、河川生態系分断の回避と自然環境の保全、およびダム以外の治水方法の選択肢の探求という立場から、地元の団体とともに反対運動を続けてきました。2009年の民主党政権によるダム見直しにより、サンルダムと平取ダムは工事一時中止となったが、その後再開され、二風谷ダムは1997年、当別ダムは2012年、サンルダムは2019年、平取ダムは2021年に竣工しました。

二風谷ダムは、国内ダムのなかでも最大級の堆砂が問題です。その原因は、ダムがある沙流川上流部の地質条件やダムの設置場所(沙流川が下流の平地に出るところに位置する)にあると思われます。2009年以降は大きな堆砂は見られないようですが、ダム設置により下流の生活環境や水産業に影響が見られ、今後の検討課題です。

当別ダムは、当初は当別川の治水が目的でしたが、周辺市町への給水目的が加わって石狩西部広域水道企業団が設立され、札幌市・小樽市・石狩市・当別町に給水することになりました。市民団体の反対がありましたが、札幌市がダムの必要を主張し、「北海道公共事業評価委員会」が妥当としました。しかし、札幌市の取水計画は、市による意図的な水道水の過大な将来予測にもとづくものであり、協会はその過大な将来予測を何度も指摘しました。2012年ダム本体完成後、市は過大な将来予測を協会が主張する将来予測に変更しました。

サンルダムは、天塩川の支流（名寄川）のそのまた支流のサンル川にあるダムで、当初からその治水目的の効果が疑問視され、またサクラマス保全も大きな問題でした。2018年にダム本体は竣工し、同年12月にバイパス水路（幅3.7m、深さ1.4m、長さ7km）、2018年3月に階段式魚道（高さ約30m、長さ約400m）が完成しました。水路は国内最長です。この魚道およびバイパス水路がサクラマス成魚の遡上やスモルトの降下を阻害するのではないか、湛水による既存の産卵床に影響を受けるのではないかと、また漁業としてのサクラマス資源に影響を与えないのかなど疑問は多いです。今後も、サンル川のサクラマス資源をはじめとする魚類とその生息環境をダム建設以前の水準に保つことを求めて旭川開発建設部および天塩川魚類生息環境に関する専門家会議と交渉します。

平取ダムは二風谷ダムの上流にあり、二風谷ダム同様に上流部の地質条件から堆砂が心配されます。本年完成の予定ですが、ダム堤体付近にはアイヌ民族のチノミシリ（我ら祀る場の意）があり、カムイノミ（神に祈る儀式）を行うところでした。現在も流域のアイヌの人たちの信仰の対象となっており、二風谷ダムとともにアイヌ民族の精神文化を守る上でも大きな問題があります。

② 風力発電問題

協会は当初、石狩湾沿岸に集中する風力開発事業について、石狩海岸に残る現在では国内でも希少となった自然海岸砂丘生態系を守るという立場で反対運動を始めました。その後地元団体とともに自然生態系保全に加えて風車騒音（低周波音など）による住民の健康や生活環境への影響の観点からも運動を進めています。

2021年3月現在、陸域では、稼働中が6事業所による22基（単機出力1,500～3,400kW、総出力64,400kW）、工事中あるいは環境アセスメント手続き中が4事業所による17基（単機出力1,650～8,000kW、総出力106,290kW）、さらに石狩湾洋上では7事業者による（事業者により違いがあるが）単機出力8,000～15,000kW、最大65基～200基、総出力52万kW～133万kW（原発1基に相当）という巨大な風力発電事業が目白押しとなっています。このうち、石狩湾新港防波堤沖の海岸から2～3km沖に出力8,000kWの風車が14基作られる計画については、札幌市環境影響評価審議会においても景観への影響やバードストライク被害が指摘されています。この事業は準備書では単機出力が4,000kWであったのが評価書では8,000kWと倍増しています。このようなことを認めるのは、現行環境アセスメント法の欠陥です。これらの風力発電事業の環境アセスメントが個々の事業者により行われ、すべての事業者による風車群全体による累積的・複合的影響についての評価がなされていないという極めて大きな問題もあります。さらに最近ではあちこちで立ちつつある環境アセスメントの不要な小型風力発電施設による被害の問題もあります。また、環境省と経済産業省は昨年秋、再生可能エネルギーを増やすとして、環境影響評価法施行令の一部を変更し、環境アセスメントが必ずしも必要でない第2種事業の上限を総出力1万kW未満から5万kW未満に引き上げました。これにより、環境アセスの法対象とならなり風力発電事業が多くなります。

石狩湾周辺では上記の他に、厚田海岸付近から内陸の当別町・石狩聚富にかけて2事業が稼働し、6事業が環境アセスメント手続き中です。

人口密集地に近いという意味から石狩湾周辺での風力発電事業が注目されますが、道内では道北や襟裳岬周辺（4事業者：業者により違いがあるが、単機出力3,000～5,300kW、最大48基～100基、総出力15万kW～50万kW）などでも大規模な風力発電事業の計画があります。また、渡島半島の檜山沖でも洋上風力発電事業の計画があります。

2020年10月、政府は「2050年温室効果ガス排出量ゼロ」を国際公約とし、今後風力発電や太陽光発電、地熱発電などの再生可能エネルギーの開発はますます増えると思われま

一方、再生可能エネルギーはエネルギー密度が小さいため広い場所を必要とし、それらの施設の造成によって森林などの自然生態系が破壊され生物多様性が失われ、私たちの健全な生活もおびやかされます。また私たちには、過去のさまざまな運動の経験から陸域の自然生態系については多くの知識やデータの蓄積がありますが、今後盛んになるとされる洋上風力発電に関してはその海洋生態系への影響についての知識やデータの蓄積があまりなく、調査のしやすい陸上と違って新たなデータも収集しにくいことが懸念されます。自然の観察・調査データにもとづく議論を基本としてきた協会は、今後、特に洋上風力発電に対してどこまで関わっていくか、あるいはいけるかは、マンパワーの点からも対応を考えて行かなければならない問題です。

③ 野生生物（エゾシカ、アザラシなど）問題

北海道からの「北海道鳥獣保護管理計画」やエゾシカ・ヒグマ・アザラシの今後 5 年の管理計画素案が示され、協会意見を述べました。

④ 「都市の自然」プロジェクト

市民と野外で直接関わって活動を行うことが比較的少ない協会にとってはたいへん貴重な機会であり、市民とともに行う自然保護活動として、円山公園における外来植物ゴボウ・イワミツバなどの駆除を継続して行なっている。会員勧誘の機会にもなっています。しかし、この 2 年間はコロナ禍にあり、予定通りの実施が困難な状況です。

⑤ 北広島市日本ハム BP（ボールパーク）とそのアクセス道路（道道きたひろしま総合運動公園線）の問題

道道きたひろしま総合運動公園線はフォーラム野幌の森、北広島森の倶楽部、北広島の自然を考える会および協会の提言により、いわゆるエコロード仕様を目指して空知総合振興局札幌建設管理部により「道道きたひろしま総合運動公園線の整備における環境保全を考える協議会」が組織され、年間に 4 回ほどの協議会を開催しています。協議会には自然保護団体が推薦した 6 名の生物関係専門家と地域代表の 3 名が有識者として加わっています。

道路の方は協議会の意見のもとに工事が進んでいます。球場が発する光や騒音による特別天然記念物野幌原始林ほかの周辺の自然への悪影響をできるだけ回避するという問題があり、球場造営の株式会社ファイターズ スポーツ&エンターテインメントと話し合いを進めています。しかし、具体的な工事内容がわからず、遅々と進まない状況です。

⑥ 阿寒摩周国立公園満喫プロジェクトの問題

政府がインバウンドを増やすことを目的に 2016 年 3 月に策定した「明日の日本を支える観光ビジョン」の 10 の改革の一つ「『国立公園』を、世界水準の『ナショナルパーク』へ」の具体化として「国立公園満喫プロジェクト」をスタートさせました。その具体計画として、民間活用を重視して先進的・集中的に取り組むを行う公園を全国から 8 カ所選び、北海道では阿寒摩周国立公園が選ばれました。

阿寒摩周国立公園では、2019 年夏から満喫プロジェクト具体化として、阿寒湖畔での「KAMUY LUMINA（カムイルミナ）」、硫黄山と川湯温泉での夜の自然を楽しむイベント「川湯の森ナイトミュージアム」（硫黄山では山肌を照らし、噴煙を上げる壮大な姿を闇夜に浮かび上がらせる）を行いました。2020 年はコロナのため中止でしたが、2021 年は実施したようです。カムイルミナの HP には、「国立公園では日本初、阿寒湖に誕生する体験型ナイトウォーク『KAMUY LUMINA（カムイルミナ）』。先住民族アイヌの物語をベースに描かれた、まったく新しい夜の森の物語。阿寒の森に施されたライティング、自然の中に溶け込む幻想的な光と音、映像」などと謳われています。

協会では、『国立公園満喫プロジェクト』は、環境省が重視し目標としなければならない自然の保護（国立公園の自然景観保護や生物多様性保全）にそわない、国立公園を極度に観光化し、人工的な自然を創造して国民に見せるということは、国として優れた自然環境地域を国立公園として保全し、国立公園での自然の体験を通じて国民の自然保護の意識を養い高めるといふ国立公園設置の趣旨に反する、阿寒摩周国立公園における「夜間の照明・仮想映像・音響・煙霧」という演出は、決して自然体験とは言えない、そのような演出は生物に対して光害や騒音などの悪影響を与えるために自然保護上、大きな問題を抱えているので、自然公園内ではなく、都市部のオープンスペースに限るべきであるという立場で、環境大臣や北海道地方環境事務所等に、国立公園を極度に観光化し、人工的な自然を創造することは自粛すべきである、一連の行事による自然への影響について調査し、評価すべきである旨の意見書を一昨年と昨年に提出しました。本年は実際に現地を見て問題を把握するよう努めます。

⑦ 高レベル放射性廃棄物（核のゴミ）の地層処分に係る文献調査（寿都町・神恵内村）問題

戦争や核実験・原発事故は、私たちの生活とともに自然環境を破壊する最たるものです。避けることができない“核のゴミ”の処分も将来の世代に及ぶ大きな問題です。一昨年 8 月に寿都町長が突如地層処分に係る文献調査に応募する意向を示し、その後神恵内村も国からの申し入れに対して受諾を表明しました。協会では同年 8 月 21 日に寿都町長宛に「寿都町の地質的特徴からみた地層処分場候補地としての問題点と地質・地形的資産の活用についての要望」を提出しました。原子力発電環境整備機構（NUMO）による文献調査は近々終了すると思われませんが、両町が次のステップである「概要調査（ボーリング調査）」に進むのかどうか注視します。私たちは、日本学術会議が 2012 年に公表した原子力委員会委員長からの審議依頼への回答や 2015 年の提言のように、暫定保管（乾式で地上保管）と総量管理（総量上限の確定）をベースとすることが現状では現実的で妥当な方法と考えています。この問題に関連して、協会は「核ゴミ問題を考える北海道会議」に加入しております。また、「泊原発を再稼働させない・核ゴミを持ち込ませない北海道連絡会」にも加入しています。

⑧ 日高山脈襟裳岬国立公園の国立公園化の問題

環境省は、昨年 4 月 1 日に国立公園の管理を行う帯広自然保護官事務所を設置し、本年末までに日高山脈襟裳岬国立公園を国立公園に指定することを目指しています。現在、国立公園区域の拡張、特別保護地区などの地種区分、施設計画（キャンプ場、登山道など）などを示した「公園計画素案（案）」を土地所有者・関係機関と調整しつつ作成している段階です。その後、パブリックコメントを行なって環境省案を完成させ、自然公園審議会に諮問し、官報告示で国立公園の指定となるとのことです。協会では、2006 年 1 月に日高山脈と夕張山地を新たな国立公園に指定することを求めた要望書を小池百合子環境大臣に提出し、2010 年 10 月には松本 龍環境大臣、皆川芳嗣林野庁長官、および高橋はるみ北海道知事に早期に指定することを要望しています。

今後のパブリックコメントを通して、日本最大の原生流域であり、わが国の北方風景を代表し、世界的にも誇り得る傑出した自然風景地である日高山脈襟裳国立公園が IUCN（国際自然保護連合）の管理カテゴリーⅡ（National Park）の国立公園、すなわち「世界水準の『ナショナルパーク』」であることを主張し、公園の観光開発を過剰に促進するのではなく、自然公園法で国などの責務とされている「生物多様性の確保」を尊重するよう求めます。

II 特別会計事業

該当なし